

人にやさしく
地球にやさしい

大日新聞

46号

大日化成株式会社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755 FAX : 06-6909-6702
URL : http://www.dainichikasei.co.jp

通気緩衝工法 水分を逃がし防水層の割れ・ふくれを防ぎます
BIGSUN
RX 工法

第9回屋上緑化講演会 開催



今年もまたこの季節がやってきた。11月20日、東京国際フォーラムにおいて、第9回屋上緑化講演会が開催された。この講演会も今回で9回目となり、これまで長く続けられてきた。講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。

さて、第9回目講演会は、テーマとして『都市緑化の新しい流れ』を掲げ、都市緑化の新しい流れについて、講演者からそれぞれの視点から講演して頂きました。講演者は、1. 講演者は飯島健太郎先生による「これからの都市環境創造とグリーンインフラの展開」、2. 講演者は奥水肇先生による「SDGsを目標とするエクステンシブ屋上緑化への期待」、3. 講演者は川口克祥先生による「都市緑化の重要性と、都市緑化の推進策」の3本立てで、それぞれ講演して頂きました。講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。

講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。

講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。講演会では、屋上緑化の重要性や、最新の技術、そして、実際に屋上緑化に取り組んでいる企業の事例などが紹介された。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者からは多くの質問が寄せられた。講演会は大盛況で、参加者も大満足だった。



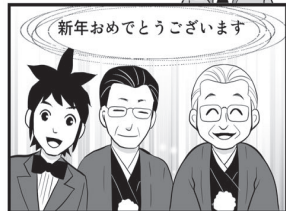
代表取締役 社長 小林 直樹

昨年、各地で地震、台風、洪水等の災害が多発し、多くの方々が被害を受けました。大日化成株式会社は、このような災害に備えるために、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでいます。屋上緑化は、雨水の浸透を促進し、都市の緑化を促進し、環境にやさしい社会を実現するための有効な手段です。大日化成株式会社は、今後も、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでまいります。

新年明けましておめでとうございます

新年明けましておめでとうございます。大日化成株式会社は、今年も、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでまいります。屋上緑化は、雨水の浸透を促進し、都市の緑化を促進し、環境にやさしい社会を実現するための有効な手段です。大日化成株式会社は、今後も、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでまいります。

大日化成株式会社は、今年も、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでまいります。屋上緑化は、雨水の浸透を促進し、都市の緑化を促進し、環境にやさしい社会を実現するための有効な手段です。大日化成株式会社は、今後も、防災対策として、屋上緑化の重要性を認識し、積極的に取り組んでまいります。



こんなところで活躍しています

学校施設 屋上 (VUS500)



スカイコートW

＜タイル張り面の透明外壁防水材＞

透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした1液型外壁用透明防水材です。

透明な塗膜
タイル仕上げの
意匠性は
そのまま!!



スカイレジン＜下地調整材＞

スカイレジンWE
エポフィラー
プライマー-E
EPC-T

水系エポキシポリマーセメントモルタルの新しい形です。溶剤型塗布材料の下地調整材に最適です!

BIGSUN ラピタルエース

＜速硬化型プレミックスモルタル＞

コンクリート欠損部の補修に最適なポリマーセメントモルタル



速硬化
軽量
厚塗り可能
取扱簡単!!
冬用ビッグサンとセットどうぞ!!



海外の緑化事情 スペイン・バルセロナの緑化事情

<http://www.ryokka.org/>

スペインのサグラダ・ファミリア教会で有名なバルセロナの街は昔からの建造物がひしめき合った計画された都市で、市や建築では無く、屋上緑化を行いたいのは、やまやまだけれども、中々そのスペースが確保できないという事に悩まされています。

そこで、目を付けたのが「交通機関の屋根」なんと、電車・バス・商用車などの屋根の上で緑化をやるというアイデアです。

ご存じのように固定された建築物の屋根の上（屋上）に緑化を施すにしてもそれなりの技術が必要ですよ。

それが動く車両となると更に困難に。しかもバスの屋根など薄い鉄板に過ぎません。そこへ緑化を施すのですから安全面を最優先に、植物の固定や様々な課題をクリアしなければなりません。

スペイン発の環境でも観光でも注目の屋上緑化は「phyto kinetic」と呼ば

れ自動車会社と提携して進められています。

各車両はエアコンをつけて走行しています。その排出される水を灌水に使えるなど様々な工夫が凝らされています。

そしてなにより、車内の温度。屋根に緑化があるもので、車内温度が平均3度下がるそうなんです。車内の温度が下がると、エアコンの温度を緩められるので燃料消費が抑えられます。

そうすると排ガスにも影響が及びますよね。その為、街中に緑化を凝らした車両がたくさん走っていることで、間接的に環境にやさしくなり、温暖化やヒートアイランド現象の緩和につながるのであるのです。

街ぐるみ、自動車のメーカーも巻き込んだ大がかりな試みですが、ユニークで現実的な施策ではないかと思えます。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

生まれは大阪府吹田市西宮にいます。現在、近所の公園で子供たちと遊ぶのが大好きです。趣味は読書と旅行。特に海外旅行が好きで、年に数回は海外へ旅行しています。仕事では、お客様の要望に応えることが大切だと考えています。これからも、お客様に最高のサービスを提供するために努力していきます。

近頃は、環境問題が話題になっています。特に、気象兵器の存在が注目を集めています。気象兵器とは、自然現象を利用して、戦争やテロ攻撃を行う兵器のことです。例えば、台風や地震、洪水などを人為的に発生させることができれば、大きな被害をもたらす可能性があります。しかし、気象兵器の開発は、国際法で禁止されています。なぜなら、気象兵器は、無差別に民間人や無実の犠牲者を生み出すからです。また、気象兵器の開発は、環境破壊を招き、地球温暖化を加速させる恐れがあります。そのため、気象兵器の開発は、国際社会から強く反対されています。



東京支店 小林勇紀

自分ではまだ防犯意識が低いと感じていますが、最近、身近で防犯意識が高まっています。例えば、家の防犯対策として、防犯カメラを設置したり、防犯ブザーを購入したり、防犯グッズを使用したりしています。また、防犯意識が高まることで、防犯グッズの需要も増えています。防犯グッズは、防犯意識を高めるだけでなく、防犯対策を支援する役割を果たしています。そのため、防犯意識を高めることは、防犯対策にとって非常に重要です。

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

Vol.43

映画で学ぶ 環境問題



ジオストーム

原 題 : Geostorm

監 督 : ディーン・デヴリン

製 作 : デヴィッド・エリソン

ディーン・デヴリン

ダナ・ゴルドバーグ

出演者 : ジェラルド・バトラー

ジム・スタージェス

アビー・コーニッシュ

上 映 : 109分

制作国 : アメリカ合衆国

配 給 : ワーナー・ブラザーズ

公 開 : 2017年(米国)

日本でも昨年公開された近未来パニック映画の「ジオストーム」。「海も凍り、飛行機も凍り、彼氏も凍る！」のテレビCMは、インパクトがありました。

ストーリーは、『ひどくなるばかりの異常気象対策として、世界各国が総力を結集し完成させた「気象コントロール人工衛星」その総指揮をとった主人公ジョーは、救世主の名譽から一転政治的な権力闘争によりクビになってしまいます。後任の弟に手柄を横取りされ、捨てバチな気持ちで引退するジョーですが、やがて発生した殺人事件で異常気象に疑問を抱き、ひとりて宇宙に戻ります。

調べてみると、機器異常や故障ではなく、誰かのわざと「気象兵器」を「気象兵器」に転化された模様。しかも、思いもよらない人物が首謀者！そこで敵対していた弟と手を組み、事態収拾をはかるジョーですが、暴走する衛星を手動で再起動させるために、たった一人で宇宙に残ります。さて結末や、いかにジョーは地球に戻って来られるのでしょうか？

一見スリリングな内容ですが、早くからネタバレする「意外な犯人」に予想通りのラストなど、アメリカ映画にありがちなパターン。特に、凄腕エンジニアであり、科学者として知性があるはずの主人公を、肉体派で粗雑なイメージのジェラルド・

バトラーが。その弟で、政治的野心にあふれ出世の官僚で、線が細く頼りないイメージのジム・スタージェスが演じる役も、ミスキャストと言わざるを得ません。

にも関わらず、このコーナーで取り上げたのは、「気象兵器」という言葉の重み、わが国が数年前とは違ったものになったからです。実際に、今年日本を通過した台風の異様な多さや、西日本豪雨を中心とした災害被害のひどさから、気象戦争が始まったと噂する人が後を絶たないのです。

特に台風12号は、通例とは逆の東から西への進路だったうえ、南九州ではグルッと一回転したため、気象兵器のわざと直後から噂されました。まあ、何でもすぐに「陰謀論」が出てくる昨今ですが、12号の場合は「前例の無い進路」との注意報が何度もされたため、話題が集中したのでしょう。また、その後の21号や24号が主要都市部を直撃したうえ、またらした被害があまりに大きかったことや、西日本豪雨や北海道地震、大阪北部地震の被災地を再破するかのよう台風が、いくつもあったことなどあり、陰謀論はいまだにやむことがありません。ネット検索すれば「証拠画像」が次々に出てくるほどです。

そして、あまり知られていないことですが、気象兵器については既に、1976年に国連総会で気象兵器禁止条約である「環境改変兵器禁止条約」が採択されており、2013年時点でも世界百二十一カ国が批准しているという現実があります。つまり、気象兵器

そういつたことを考えながら再度、鑑賞してみたところ、単なるパニック映画と違って新たな魅力も見えてきます。それは、実際に起こった様々な異常気象の映像を織り込んでいくというところ。これらの映像は、作り物のCGとは違い、緊迫感が半端ありません！そしてCG映像でさえも、大きな氷塊が東京を襲ったシーンは、今夏の関東での同様事案に重なって見えます。とはいえ、恐ろしい映像ではありませんので、ファミリー映画としてもぜひ、ご覧頂きたいと思えます。

確かに今年の台風の数や内容は「異常」レベルとも言えましたし、その影響で、関西では国際空港がストップしたり、関東圏では電車や電力網が塩害でやられたほか、10月中旬に桜が咲き11月にセミが鳴くなど、これまでになかったことが続いているのですから、陰謀論が出てくるのも致し方ないのかも知れません。

ですから、気象兵器そのものは決して絵空事ではなく、現実社会の問題であり、禁止条約があるというところは、それを破って使おうとする勢力も、存在するかもしれないということ。

器はかなり以前から存在しており、その使用を防ぐために各国が真剣に討議してきたというところで、「気象兵器はベトナム戦争時から使用されてきた」と発表する理論物理学者さえいます。